

戸田 奈津子 さん

(映画字幕翻訳者)

映画字幕翻訳の第一線でご活躍されてきた戸田奈津子さん。「とにかく映画が大好き」この熱い想いが全ての源です。

登場人物に成りきって行う字幕翻訳は最高にエキサイティングな体験です。

Healthy Life

ヘルシーライフ

SINCE 1984 No. 115

April 2014

自分の知らない世界に強く興味を引かれました。

……外国映画との出会いはいつ頃ですか。

戸田 9歳の時に終戦を迎えて、疎開先から東京に戻った頃に外国映画が解禁になりました。戦争中は娯楽など何もありませんでしたから、ひとときの夢を求めて大勢の人が映画館に押し寄せたんです。私も小学校の時、母と一緒に新宿の映画館ではじめて外国映画を観ました。スクリーンに映し出される自分の知らない世界に興味を引かれ、それ以来外国映画に夢中になりました。その経験が今の私の原点です。

持ったものに英語があります。とにかく映画に関するものは何でも知りたくて、語学もそのひとつでした。他の勉強は全然やりませんでした。が、中学校からはまった英語の授業だけは一所懸命勉強しました。残念ながら上達したくないという私の思いに添えてくれる授業ではありませんでした。けれどね、それでも外国映画好きの私にとって英語は切り離せないものになり、大学は英文科に進学して勉強を続けました。

……どのようなきっかけで映画字幕翻訳者を目指されたのでしょうか。

戸田 高校生の時に観た『第

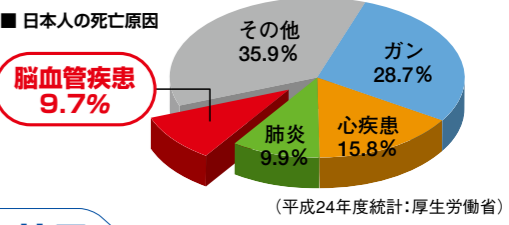
三の男』という映画で字幕翻訳の面白さに触れました。私の好きな作品で、安く公開される映画館を探し回って50回くらい観たかしら(笑)。ある男がウイスキーのグラスを持ちながら「I shouldn't drink it. It makes me acid」と言うシーンがあります。直訳すると「私はこれ(酒)を飲んではいけません。これは私をacidにするからね」。acidは「酸性」「不機嫌」「気難しい」の意味がありますが、そのセリフの字幕翻訳が「今夜の酒は荒れそうだ」だったのね。なんてかっこいい訳だろうと感激しました。字幕は英語のセリフをただ直訳

するのではなく、そのストーリーを踏まえながらエッセンスをうまく日本語に置き換える、翻訳者の創意工夫が光る面白いものだと思います。

字幕翻訳を仕事として意識したのは就職を控えた大学三年生の頃です。仕事をやるなら自分がやりたい職業に就きたい、でも惹かれる職業がない。そんな迷いの中で浮かんだのが、『第三の男』を観て感動した字幕翻訳のこと。好きな映画と英語を活かして、おまけに無料で映画が観られるかもしれない。「これしかない！」と、映画字幕翻訳の道に進むことを決意しました。

“脳ドック”のご紹介

脳卒中や脳動脈瘤などの脳血管疾患の多くは自覚症状がほとんどなく、気がついた時には手遅れという場合が少なくありません。ヘルチェックでは、最新のMR装置による精度の高い脳ドックで小さな病変も早期に発見。皆さまの健康をサポートいたします。



ヘルチェックの脳ドックの特長

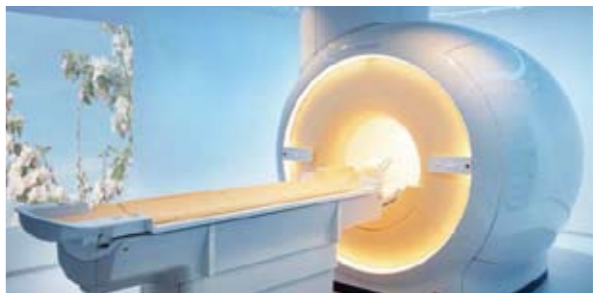
●最新のMR装置による撮影と専門医による画像診断

導入した最新の3.0テスラMR装置は、国内で一般的な1.5テスラ以下の装置と比べ、より高画質の撮影が可能で、小さな病変も鮮明に写し出します。その画像を専門医によるダブルチェックで的確に診断いたします。



●スピーディでストレスの少ない検査環境

3.0テスラMR装置は、スピーディな検査も特長です。さらに検査中のストレスを低減するため、Philips社の検査室内環境システム“Ambient Experience Premium”を国内で初めて導入。照明と映像と音響による空間演出によってリラックスしてご受診いただけます。



各コースのご案内

『脳ドック』55,000円(税別) (検査時間約2時間)

脳の断面撮影を行うMRIや、血管の状態を検査する頭部・頸部MRAを中心に、脳疾患を引き起こすリスクを徹底的に調べ、総合的な診断を行います。検査結果は受診当日にお伝えし、ご質問やご相談にもきめ細かく対応いたします。

『脳MRI』36,000円(税別) (検査時間約30分)

MRIとMRAによって脳疾患を引き起こす可能性のある病変の有無をくまなくチェックします。「脳MRI」は単独でもご受診いただけますが、人間ドックや一般健診と組み合わせればより詳しい診断を行うことが可能となります。

【検査項目】	検査費用(税別)	頭部MRI	頭部MRA	頸部MRA	血圧測定	血液検査	身体検査	心電図	頸動脈エコー	尿検査	当日結果説明	結果報告書
脳ドック	55,000円	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
脳MRI	36,000円	●	●	●								●

■ 書面によるご報告は、後日ご自宅へお届けいたします。

脳ドックで脳の定期健診をおすすめいたします。

脳血管疾患は生活習慣病と密接な関わりがあるため、通常の健診と併せた定期的な脳ドックのご受診をおすすめいたします。

- このような方に脳ドックをおすすめします
- 喫煙や飲酒の多い方
 - ストレス過多の方
 - 頭痛がある方
 - 高血圧、肥満、脂質異常傾向の方
 - 糖尿病や心疾患の方
 - ご家族に脳疾患の病歴がある方
 - 40歳以上の方

総合健診センター ヘルチェック

■ ご予約・お問い合わせ ■

TEL 東京 (03)3345-7766 FAX (045)441-8451 (東京・横浜共通)
 横浜 (045)453-1150 web www.health-check.jp
 (月曜～土曜 8:30～18:00・祝日も受付)
 ■ 受診日 月曜～土曜(祝日もご受診いただけます)



HEALTHY SALON



**字幕翻訳に専念できるまで
20年の歳月がかかりました。**

……字幕翻訳の仕事に就くために、まず何をされましたか。

戸田 映画の巻頭タイトルに字幕翻訳者としてお名前が載っていた清水俊二先生にお手紙を出し、お会いすることができました。でも清水先生からは「字幕翻訳者になるのは難しい」と言われました。熟練の翻訳者が10人居れば仕事は回ってしまう閉鎖的な世界。当然、字幕翻訳者になるためのマニュアルなどなく、自分でチャンスを探さなければならぬ。一朝一夕に開けない道でしたが、諦めずに長期戦を覚悟しました。結局、字幕翻訳に専念できるまで20年の歳月がかかりました。

……その20年間はどのように過ごされたのでしょうか。

戸田 大学卒業後に就職した会社を1年半ほどで辞めて、翻訳のアルバイトをはじめました。通信社の原稿書き、化粧品会社の資料翻訳など、結構忙しかったです。そうして10年が過ぎた頃、それまでお手紙で繋がっていた清水先生から時々、資料の翻訳などの仕事をいただくようになりました。またこの頃、映画配給

英語のセリフのエッセンスを的確に掴んで、日本語訳に置き換えていくわけです。つまり的を射た日本語を使いこなす力が求められるわけで、字幕翻訳にはもちろん英語力は必要ですが、それ同様に、時にはそれ以上に重要なのは日本語力なのです。

これからは自由な時間を気ままに楽しみます。

……これまでの活動をどのように感じていらっしゃいますか。

戸田 私の仕事は傍から見たら凄く退屈なものではないです。一日中机に向かってパソコンをたたいていただけのもの。でも私自身は楽しくてしょうがないんです。毎回違う映画の世界に入り込み、登場人物に成りきってセリフを考えるのですから。例えば『007』の世界でボンドと一緒にスリルを味わい、その次は『タイタニック』に乗って壮大なラブロマンスとパニックを体験する。年に40本以上もの映画を翻訳した時期はどれほどの役に成り上がったことか。映画のジャンルも多様ですから、登場人物に成りきって行う字幕翻訳は最高にエキサイティングな体験ですよ。



戸田 奈津子 さん (映画字幕翻訳者)

東京都出身。
お茶の水女子大学附属幼稚園～高等学校を経て津田塾大学英文科卒業。
卒業後、生命保険会社に入社。英文翻訳担当の秘書として勤務ののち、フリーで翻訳の仕事を開始。

- 1970年 『野生の少年』で映画字幕デビュー。
- 1979年 フランシス・フォード・コッポラ監督の『地獄の黙示録』で字幕翻訳を担当し映画字幕翻訳の地位を確立。
- 以後、数々の映画字幕翻訳を手がける。
- また、来日した多くの俳優、監督の通訳としても活躍。海外の映画界に幅広い交友関係を持つことでも知られている。
- 1992年 第一回淀川長治賞受賞。
- 1995年 ゴールデングローリー賞受賞。

【主な字幕翻訳作品】
『地獄の黙示録』『E.T.』『インディ・ジョーンズ』『アンタッチャブル』『レインマン』『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『ゴッドファーザーPARTⅢ』『ジュラシック・パーク』『パイレーツ・オブ・カリビアン』『ハリー・ポッターシリーズ』『M:Ⅲ』『アバター』『キャプテン・フィリップス』他 1500本以上の映画字幕翻訳に携わる。

【主な著作】
『字幕の中に人生』(白水社/1997年) 『スターと私の英会話』(集英社/2003年) 『字幕の花園』(集英社/2009年) 他



2013年暮れ来日したコッポラ監督と
リチャード・ギアの別荘にて



HEALTHY SALON

**数々の素敵なお出合いを
与えてくれた映画に
とても感謝しています。**

会社から依頼されて、会話力ゼロなのに来日した俳優や監督の通訳をはじめました。お陰で通訳の仕事を通して沢山の貴重な友人を得ることができました。
通訳が先行して、映画配給会社から念願の字幕翻訳の依頼がきたのは33歳の頃です。でも字幕翻訳の仕事が年に1〜2本という状況はそれ以降10年間変わりませんでした。

……字幕翻訳の仕事に専念できるようになった転機は何だったのですか。

戸田 フランシス・フォード・コッポラ監督との出合いが大きな転機となりました。コッポラ監督は、『地獄の黙示録』を撮影していた頃、アメリカと撮影地のフィリピンを往復するための中継地点として何度か日本に立ち寄り、その時に通訳兼ガイドとして一緒に過ごしていただきました。サンフランシスコでの試写やフィリピンの撮影現場に立ち合うなどの貴重な体験もさせていただきました。そしてこの大作が1979年に完成した際に、映画配給会社から字幕翻訳の仕事をお願いしたんです。私には実績がなかったのが本当に驚きました。制作中の監督に帯同し、監督の話をお聞きする時間が長かったという理由で、コッポラ監督が私のことを後押ししてくださった。それをずっと後になって知りました。

これを境に字幕翻訳の仕事が次々と舞い込むようになり、以降、30余年没頭してきました。字幕翻訳の仕事に就きたいと願い、40歳過ぎてようやく叶ったのは、本当にコッポラ監督のお陰です。

重要なのは日本語力です。

……翻訳して字幕にする上で重要なことは何でしょうか。

戸田 平均的日本人が映像を観ながら読める字幕の文字数は1秒間に3〜4文字。横字幕の場合は1行に13文字と決められています。そのルールに沿って英語のセリフを日本語に翻訳していきます。長い英語のセリフを日本語でどのように短く表現するか。



……今、楽しみにしていらっしゃることはありますか。

戸田 好きな旅行を楽しみたいですね。そのためにも健康でいなきやと思っています。これまで大きな病気もなく過してこられたのは、親からもらったDNAのお陰でしょうか。それでも60歳を越えてからはやはり身体に気をつけようと、時々人間ドックに行っています。十分な睡眠と低カロリーの食事は何とか心がけていますけれど、運動が大嫌い。でも旅行するのに足腰が弱いのは困るでしょ。それで75歳からタップダンスを習いはじめたんですよ。これからは仕事を控え、自由な時間を気ままに楽しみます。

これまで映画を通して出会った人たちは、かけがえのない私の財産です。例えばハリソン・フォードやリチャード・ギアはデビュー当時から知っている古い友人で、彼らは素晴らしい俳優というだけでなく、人間的魅力に溢れています。このような数々の素敵なお出合いを私に与えてくれた映画にとても感謝しています。

※1 清水俊二……1906年〜1988年 日本の映画字幕翻訳家、映画評論家、翻訳家。約2000本の映画字幕の他、アメリカ文学、ミステリー小説、映画関連本の翻訳をした。1984年、映画翻訳者協会現、映画翻訳家協会を設立。1989年、日本エッセイスト・クラブ賞受賞。
※2 フランシス・フォード・コッポラ……1939年生まれ。アメリカ合衆国の映画監督、映画プロデューサー。代表作として『ゴッドファーザー』(1973年アカデミー脚本文賞)、『ゴッドファーザーⅡ』(1975年アカデミー作品賞、監督賞、脚本文賞)、『地獄の黙示録』(1979年カンヌ国際映画祭パルム・ドール、国際批評家連盟賞) 他多数